



コーヒーマーカー保証書

持込修理

取扱説明書・本体表示などの注意書きに従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理いたします。製品と本書をご持参のうえ、お買い上げの販売店にお申しつけください。この製品は持込修理対象製品ですので、郵送などで修理依頼された場合の送料などはお客様負担となります。

型名	EC-RT40		修理メモ
※お客様	お名前	電話番号	
	ご住所 〒		
※お買い上げ日	※販売店名・住所・電話番号		
年月日			
保証期間	お買い上げ日より		
	本体1年		

※印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

- ご転居・ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社のお客様ご相談窓口にご連絡ください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りや不当な修理・改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災・地震・水害・落雷・その他の天災地変、公害・塩害・虫害・ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧・指定外の使用電源(電圧・周波数)などによる故障および損傷。
 - (ニ) 一般家庭用以外(たとえば業務用など)に使用された場合の故障および損傷。
 - (ホ) 車両・船舶などに搭載された場合の故障および損傷。
 - (ヘ) 本書のご提示がない場合。
 - (ト) 本書にお買い上げ年月日・お客様名・販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書きかえられた場合。
 - (チ) 消耗品などの交換。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

- お客様にご記入いただいた記載内容は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。
- この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社のお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

象印マホービン株式会社

〒530-8511 大阪市北区天満1丁目20番5号 電話(06)6356-2451

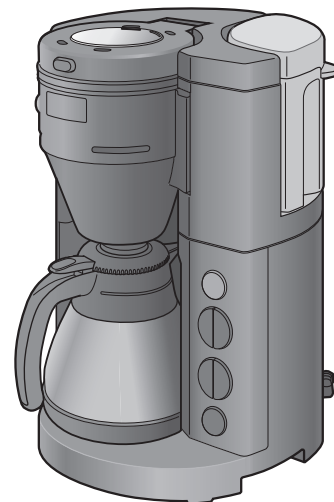
コーヒーマーカー

珈琲通[®]

型名 EC-RT40 型

取扱説明書

保証書つき



- このたびはお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ごぞいませ。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、大切に保管してください。

「ZOJIRUSHIオーナーサービス」で製品登録をお願いいたします。

ZOJIRUSHIオーナーサービスではご登録いただいたお客様に消耗部品の特別価格販売など様々な特典をご用意しています。

【ZOJIRUSHIオーナーサービスWEBサイト】
<https://www.zojirushi-support.jp/>



- 「ZOJIRUSHIオーナーサービス」の登録についてはパソコン・スマートフォン・タブレットといった機器が必要です。
- 本サービスは、日本国内に居住する個人のお客様に限り、日本国内でのみ利用可能です。

もくじ

お使いになる前に

- 安全上のご注意 2
- お使いになる前に 4
- 各部のなまえ 5
- 各部のはずし方・つけ方 8

使い方

- 使い方 11

お手入れ

- お手入れ 20
- クエン酸洗浄のしかた 23

困ったときに

- 故障かなと思ったとき 24
- 部品の交換・購入について 26
- アフターサービス 26
- 仕様 27
- お客様ご相談窓口 27
- 保証書 裏表紙

愛情点検

長年ご使用のコーヒーマーカーの点検を!



こんな症状はありませんか

- ご使用中、コード・差し込みプラグが異常に熱くなる
- 焦げくさいにおいがする
- 製品の一部に割れ・がたつき・緩みがある
- その他の異常や故障がある

ご使用中止

こんな症状のときは、故障や事故防止のため、使用を中止し、コンセントから差し込みプラグを抜いて、必ず販売店に点検(有料)をご相談ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。




■誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を、次の区分で説明しています。

 警告 死亡や重傷に結びつく恐れがある内容です。	 注意 軽傷または家屋・家財などの損害に結びつく恐れがある内容です。
---	--

■お守りいただく内容を、次の区分で説明しています。






 してはいけない「禁止」内容です。	 実行しなければならない「指示」内容です。
---	--

警告

 分解禁止 改造はしない。また修理技術者以外の人は、分解したり修理をしない 火災・感電・けがの原因になります。修理はお買い上げの販売店または弊社のお客様ご相談窓口にご相談ください。	 禁止 交流100V以外では使用しない 火災・感電の原因になります。
 水ぬれ禁止 本体を水に浸けたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因になります。	 必ず実施 コードを傷つけない 無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、高温部に近づけたり、重いものを載せたり、挟み込んだり、加工したりするとコードが破損し、火災・感電の原因になります。
 ぬれ手禁止 ぬれた手で差込みプラグを抜き差ししない 感電・けがの恐れがあります。	 必ず実施 定格15A以上のコンセントを単独で使う 他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して、発火の原因になります。
 接触禁止 蒸気口に触ったり、手や顔を近づけない やけどの恐れがあります。特に乳幼児には触らせないようにご注意ください。	差込みプラグは根元まで確実に差し込む 感電・ショート・発煙・発火の原因になります。
 禁止 子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わない やけど・感電・けがの恐れがあります。	差込みプラグの刃(プラグの先端)および刃の根元にほこりが付着している場合は、よくふく 火災の原因になります。
ステンレスサーバーやカップなどを載せていない状態で使用しない やけどの恐れがあります。	異常・故障時には、直ちに使用を中止する そのまま使用すると発煙・発火・感電・けがの原因になります。 <異常・故障例> ●コードや差込みプラグが異常に熱くなる ●コードに深い傷や変形がある ●焦げくさいにおいがする ●製品の一部分に割れ・がたつき・緩みがある ●コードを動かすと、通電したりしなかったりする ●キーを押しても動かない ●本体から水漏れする ●蒸気口以外の場所から水や蒸気が漏れる ●本体が変形したり、異常に熱くなる
カップなどに直接ドリップするときは、使用するカップ1杯分を超える水を水タンクに入れない コーヒーがあふれて、やけどの恐れがあります。	このような場合は、すぐに差込みプラグを抜いて、販売店に必ず点検・修理を依頼する
コードや差込みプラグが傷んだり、コンセントの差し込みが緩いときは使用しない 感電・ショート・発火の原因になります。	

●お買い上げの製品と本書に記載したイラストは異なることがあります。

注意


 接触禁止 使用中や使用後しばらくは高温部(シャワードーム・ミルクケースふた・スイングバスケットなど)に触れない やけど・けがの恐れがあります。	 禁止 ステンレスサーバーやカップなどを載せたまま本体を動かさない やけど・けがの恐れがあります。
 禁止 熱に弱い敷物の上では使用しない 火災の原因になります。	ドリップ中は水をつぎ足さない コーヒーがあふれて、やけどの恐れがあります。
不安定な場所では使用しない やけど・けがの恐れがあります。	水タンクに水を入れて取りつけたあとは、本体からはずしたり、動かしたりしない やけど・水漏れ・故障の原因になります。
壁や家具の近くで使わない 蒸気または熱で壁や家具を傷め、変色・変形の原因になります。	本体の刃は鋭利なため、手を入れたり触れたりしない コーヒー豆やコーヒー粉を取り除くときは、必ず付属のブラシを使用する けがの恐れがあります。
火気の近くで使用しない 火災の原因になります。	 必ず実施 使用時以外は、差込みプラグをコンセントから抜く けが・やけど・絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。
ドリップ中にステンレスサーバーやカップなどはずしたり、別のカップにかえない やけどの恐れがあります。	 必ず実施 お手入れは冷めてから行う 高温部に触れ、やけどの恐れがあります。
本体・ステンレスサーバーを電子レンジで使用したり、直火(ガス台など)や電気ヒーター・IH調理器・IHクッキングヒーターなどの上に載せない 発煙・発火・とっ手の変形・金属部から火花が飛び散る原因になります。	差込みプラグを抜くときは、コードを持たずに必ず先端の差込みプラグを持って引き抜く 感電・ショート・発火の原因になります。

お願い

■他の電気機器に蒸気が当たる場所では使用しない 蒸気により、電気機器の火災・故障・変色・変形の原因になります。	■空だきはしない 水タンクに水を入れずに通電すると、故障の原因になります。
■カーペット・布製のテーブルクロスの上では使用しない コーヒーが飛び散る恐れがあります。	■受皿やトレイをはずして使用しない やけどの恐れがあります。
■屋外で使用しない 故障の原因になります。	■細挽き粉を使用しない コーヒーがあふれて、やけどの恐れがあります。
■水にぬれた場所で使用しない 感電の恐れがあります。	■計量スプーンのすりきり3 3/4 杯(約30g)を超えるコーヒー豆(粉)を入れない コーヒーがあふれて、やけどの恐れがあります。
■テーブルからはみ出した状態で使用しない けが・やけどの恐れがあります。	■ミルクケースにコーヒー豆以外のものを入れない 故障の原因になります。
■持ち手以外を持って本体を持ち運ばない	■使用中にミルクケースふたやスイングバスケットを開けない やけどの恐れがあります。

安全上のご注意 つづき

お願い

<p>■使用中や使用後しばらくはスイングバスケットの下に手を入れない 湯沸かし中やミルクケースふたの開閉などで湯が垂れて、やけどの恐れがあります。</p>	<p>■ステンレスサーバーを倒したり、レバーを押したまま持ち運びしない 内容物が漏れて、やけどの恐れがあります。</p>
<p>■ドリップ直後にペーパーフィルターやステンレスメッシュフィルターを直接触らない やけどの恐れがあります。</p>	<p>■専用のステンレスサーバーやカップなど(指定のサイズ)以外は使用しない(→P.17) コーヒーがあふれて、やけどの恐れがあります。</p>
<p>■続けて運転する場合は、スタートランプが消灯した状態で5分以上待つ 本体が熱いうちに給水したり動かし続けると、蒸気口から突然蒸気や熱湯が出て、やけどの恐れがあります。また、連続してコーヒー豆を挽くと内部モーターの故障の原因となります。</p>	<p>■ステンレスサーバーを水に浸さない すき間に水がたまり、さびや変形の原因になります。</p>
<p>■使い終わったら、必ず差込みプラグをコンセントから抜く 長時間通電を繰り返されると故障の原因となり、異常加熱や発煙する場合があります。</p>	<p>■ステンレスサーバー外側の底に貼っている底シールは絶対にはがさない さびや穴あきなど故障の原因になります。</p> 
<p>■水タンクに水以外のものを入れない 牛乳・酒・コーヒー・湯など、水以外のものを水タンクに入ると故障の原因になります。</p>	<p>■ステンレスサーバーをドリップ以外の目的で使用しない。特に次のものは絶対に入れない</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ドライアイス・炭酸飲料など ステンレスサーバー内の圧力が上がり、飲み物がふき出たり、サーバーふたセットが破損して飛散することがあり危険です。 ●みそ汁・スープ・昆布茶など、塩分を含んだもの ステンレスサーバー内側は18-8ステンレスを使用していますが、さびたり、保温力が低下する原因になります。 ●牛乳・乳飲料・果汁など 成分が腐敗することがあります。そのまま長く放置した場合は腐敗によりガスが発生し、ステンレスサーバー内の圧力が上がり、飲み物がふき出たり、サーバーふたセットが破損し飛散することがあり危険です。 ●果肉・お茶の葉 詰まる・漏れるなど故障の原因になります。
<p>■水タンクに水を入れたまま放置しない 故障・変色・におい・腐敗の原因になります。</p>	
<p>■水タンクを本体からはずすときは、本体を押さえる 本体が持ち上がり、落下することがあります。</p>	
<p>■ステンレスサーバーは、落としたり、固いものにぶつけたりしない 樹脂部分が破損したり、ステンレスサーバー表面がへこみ、保温性能が低下することがあります。</p>	

お使いになる前に

- この製品は家庭用です。業務用として使用しないでください。
- この製品はコーヒーを作るためのものです。コーヒーを作る以外には使用しないでください。水以外のもの(牛乳・酒・コーヒー・湯など)を水タンクに入ると故障の原因になります。
- 使いはじめはプラスチックのにおいがすることがありますが、ご使用とともに少なくなります。また、黒い粉が落ちることがありますが、これは浄水用の活性炭で無害ですので使用上差しつかえありません。

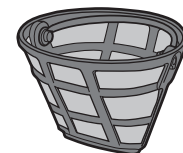
- 初めてお使いになるとき
- 長期間お使いにならなかったとき

- ①浄水カートリッジケースセット・ステンレスメッシュフィルター・フィルターケース・ステンレスサーバーなどを洗う →P.20～22
- ②各部品を取りつける(ステンレスサーバーを必ず取りつけてください。)
- ③水タンク目盛の「HOT」コーヒーカップ 4」まで水を入れる
- ④「粉」キー・「普通」キーを押してコースを選ぶ →P.18
- ⑤水だけでドリップして本体内部を洗浄する(③～⑤を1～2回繰り返す)

各部のなまえ

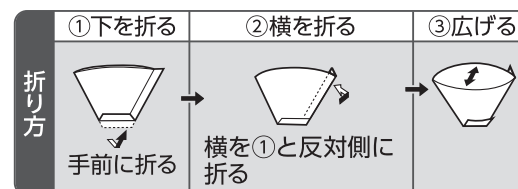
付属品

- ステンレスメッシュフィルター



- ペーパーフィルター(2枚)

ペーパーフィルターがなくなったときは、市販の1×2(2～4杯用)、または102(2～4人用)をお求めください。



- ペーパーフィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- ペーパーフィルターがフィルターケースからはみ出さないように折り幅を調節してください。

- 浄水カートリッジ(消耗品)

お買い上げ時は浄水カートリッジケースセットに取りつけておりませんのでお使いになる前に取りつけてください。(→P.10)



- 計量スプーン

コーヒー豆・コーヒー粉
すりきり1杯約8g

3/4杯の目安

1/4杯の目安

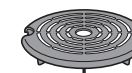


- ミルクケースブラシ

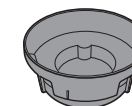
お買い上げ時は計量スプーンに取りつけられています。



- カップ用トレー

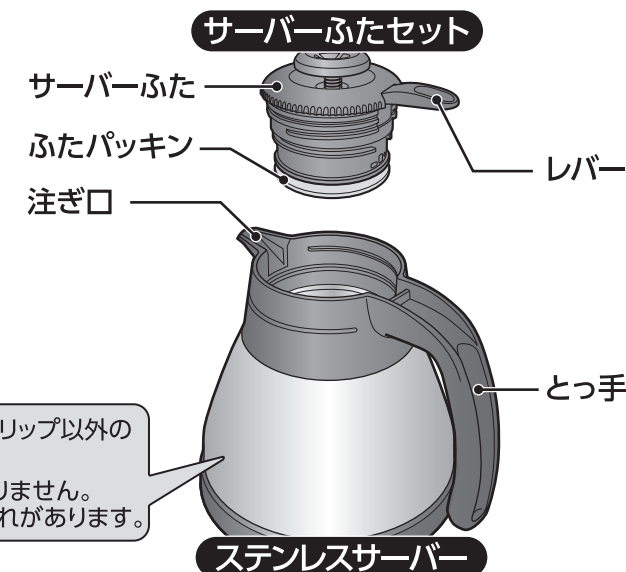


- カップ用受皿



1杯分ならカップ(コーヒーカップ・マグカップ・ステンレスマグなど)に直接ドリップできます。

- 指定のサイズを使用してください。(→P.17)
- カップの容量に合わせて自動的にドリップをとめる機能はありません。



- ステンレスサーバーをコーヒードリップ以外の目的で使用しないでください。
- サーバーふたは密栓方式ではありません。転倒すると湯が漏れ、やけどの恐れがあります。

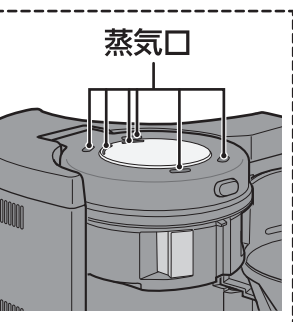
各部のなまえ つづき

本体の持ち運び方

- ①スイングバスケット、水タンクをはずす
- ②持ち手(左右2カ所)を持って運ぶ

- 持ち運ぶときは、本体を傾けないでください。傾けると水がこぼれる場合があります。
- ミルクケース、ミルクケースふたは持たないでください。

両手で持つ



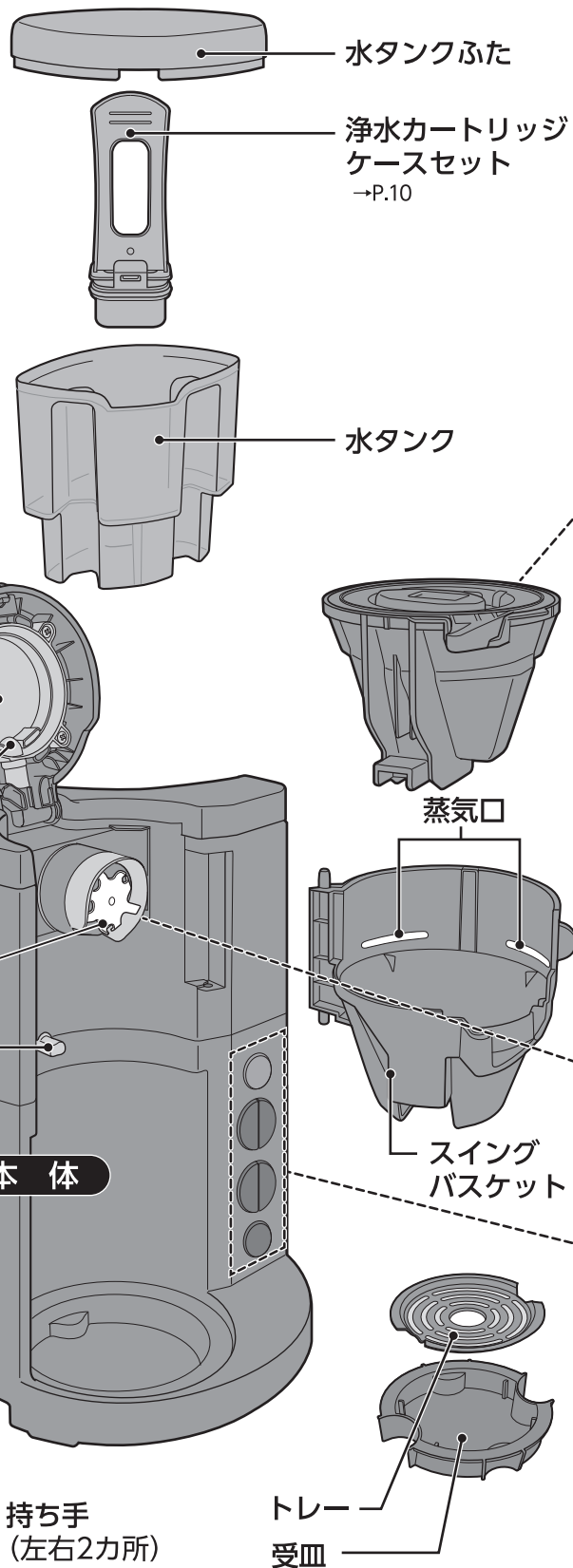
- ミルクケースふた
- シャワードーム
- トップチューブ
(湯の出口)
- 刃
- カム

手で回すと故障の原因になります。

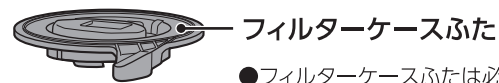
- コード
- 差込みプラグ

結束バンド

- 使用の際にはコードを束ねている結束バンドをはずしてください。
- コードは束ねて使用しないでください。(コードが熱くなり、故障の原因になります。)



フィルターケースセット

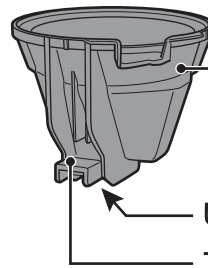


- フィルターケースふたは必ず取りつけてください。



ステンレスメッシュフィルター

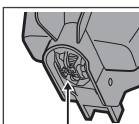
- ステンレスメッシュフィルターとペーパーフィルターを同時に使用しないでください。コーヒー粉がフィルターからあふれる恐れがあります。
- ステンレスメッシュフィルターを使用すると、ドリップされたコーヒーにコーヒー粉が混ざることがあります。気になる場合は、ペーパーフィルターを使用してください。



フィルターケース

- しずくもれ防止弁
- フィルターケースレバー

しずくもれ防止機構について

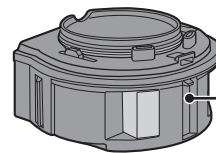


しずくもれ防止弁

コーヒーのしずくがフィルターケースから漏れないようにするしくみです。

ドリップ中に自動でしずくもれ防止弁を開閉し、コーヒーの濃度調節を行うため、コーヒーが出てこない時間があります。

ミルクケースセット

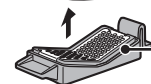


ミルクケース

取りつけるときは……→P.9 参照

挽き方を選ぶときは……→P.12 参照

お手入れするときは……→P.20 参照



ミルクケースフィルター

(ミルクケースフィルターはミルクケースの裏面にセットされています。)

操作部

「入/切」キー



豆・粉選択キー

コーヒー豆ランプ

「豆」キー

- コーヒー豆を入れてドリップするときを使う →P.18

濃度調節キー

普通ランプ

「普通」キー

- 普通コースを選択するときを使う →P.18

スタートランプ

コーヒー粉ランプ

「粉」キー

- コーヒー粉を入れてドリップするときを使う →P.18

濃いランプ

「濃い」キー

- 濃いコースを選択するときを使う →P.18
- クエン酸洗浄するときを使う (3秒以上押し) →P.23

「スタート」キー

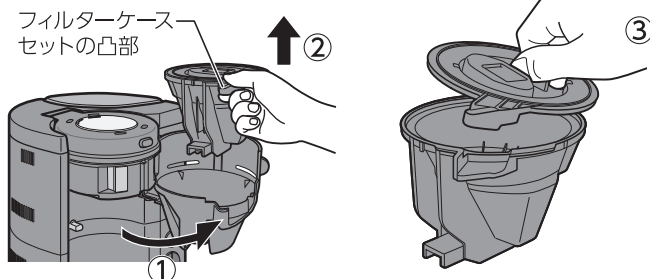


各部のはずし方・つけ方

フィルターケースセット

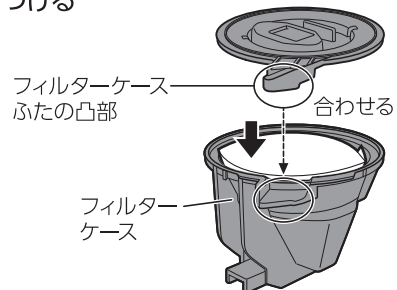
はずし方

- ①スイングバスケットを開ける
- ②フィルターケースセットの凸部を持ち、取りはずす
- ③フィルターケースふたをはずす



つけ方

フィルターケースふたの凸部をフィルターケースに合わせて取り付ける

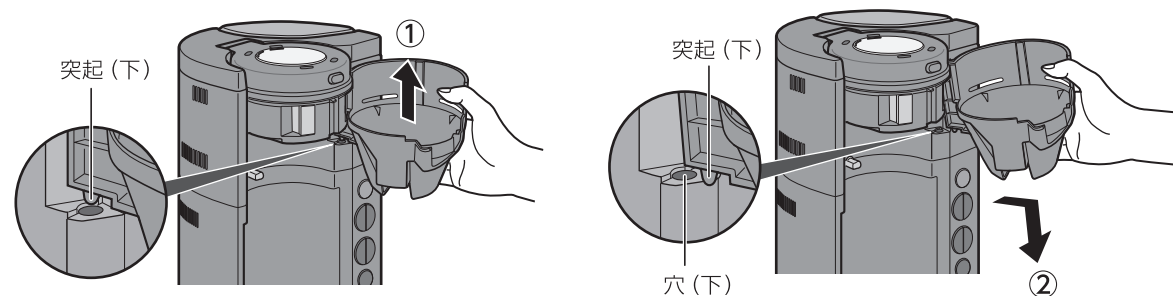


スイングバスケット

●ステンレスサーバー、フィルターケースセットを取りはずしてから行ってください。

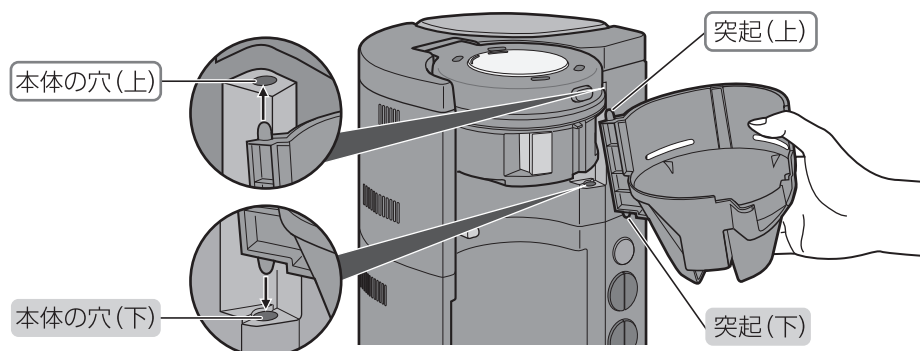
はずし方

- ①スイングバスケットを全開にし、持ち上げて突起(下)を浮かせる
- ②スイングバスケットを矢印の方向にずらして下方向にはずす



つけ方

突起(上)を本体の穴(上)に差し込んでから、突起(下)を本体の穴(下)に合わせてはめ込む

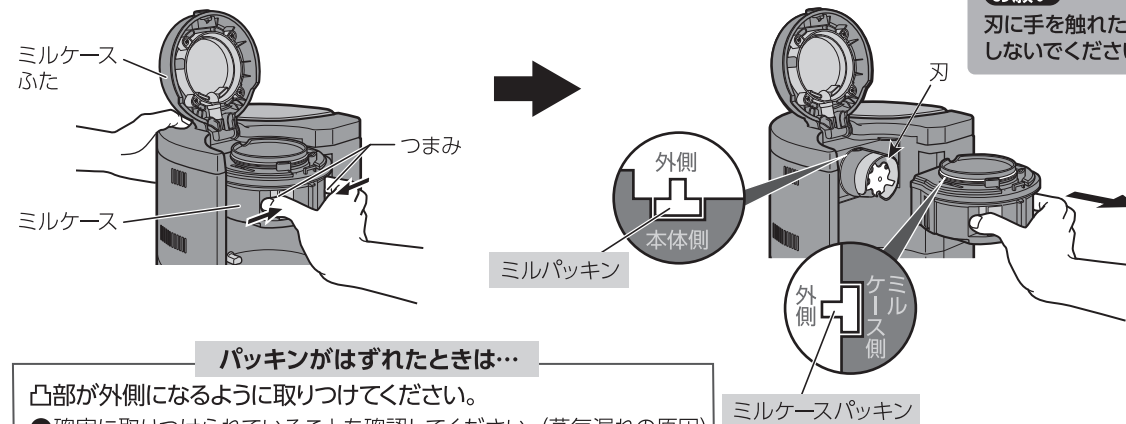


ミルクケース

はずし方

●ミルクケースふたを開けてからミルクケースをはずしてください。
(ミルクケースふたを開けないとミルクケースがはずせません。)

- ①ミルクケースふたを開けてミルクケースの両側のつまみを内側に押す
- ②つまみを押しながら手前に引き抜く

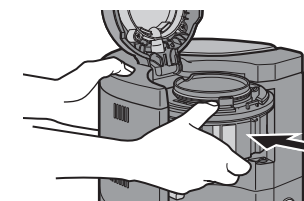


パッキンがはずれたときは…

- 凸部が外側になるように取りつけてください。
- 確実に取り付けられていることを確認してください。(蒸気漏れの原因)
 - パッキンのねじれなどに注意してください。

つけ方

ミルクケースを持って「カチッ」と音がするまで押し込む



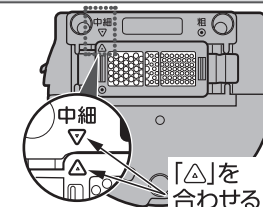
ミルクケースフィルター

●ミルクケースをはずしてからミルクケースフィルターをはずしてください。

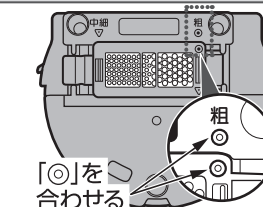
好みの挽き方になるように、ミルクケースとミルクケースフィルターの記号を合わせて取りつけてください。

(このイラストは裏面です。)

中細挽きの場合

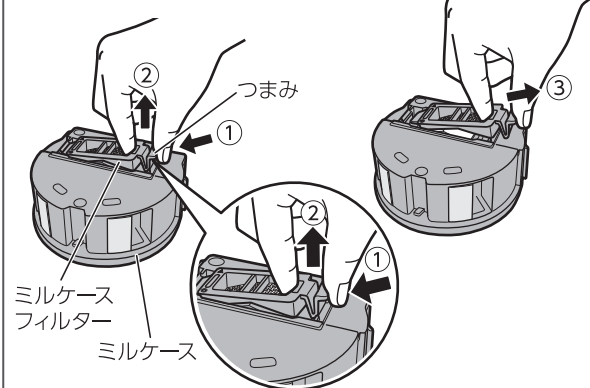


粗挽きの場合



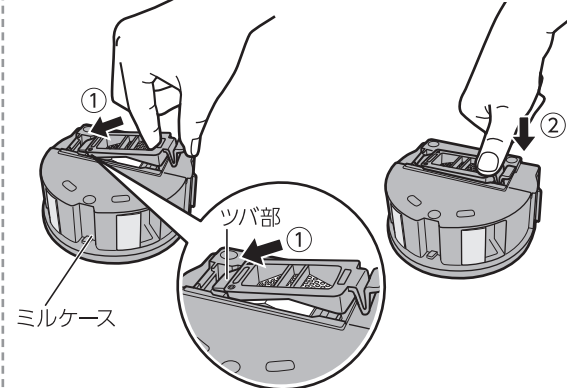
はずし方

- ①つまみを押さえながら
- ②持ち上げる
- ③はずす



つけ方

- ①ツバ部をミルクケースに差し込む
- ②「カチッ」と音がするまで押し込む



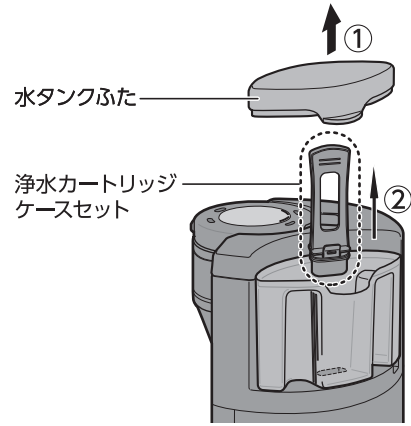
(このイラストは中細挽きの場合です。)

各部のはずし方・つけ方 つづき

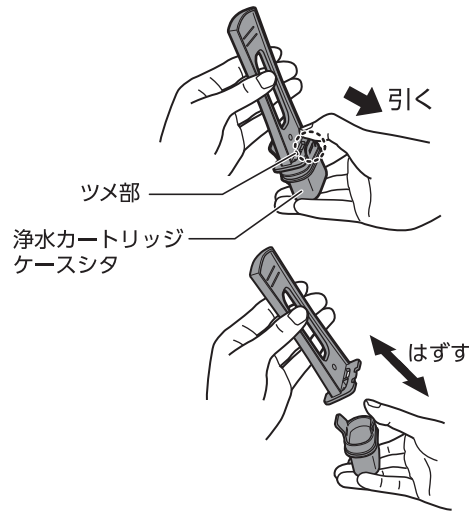
浄水カートリッジケースセット

はずし方

- ① 水タンクふたをはずす
- ② 浄水カートリッジケースセットをはずす



- ③ 浄水カートリッジケースシタのツメ部を引きながら取りはずす

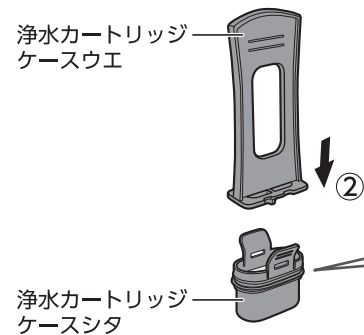


つけ方

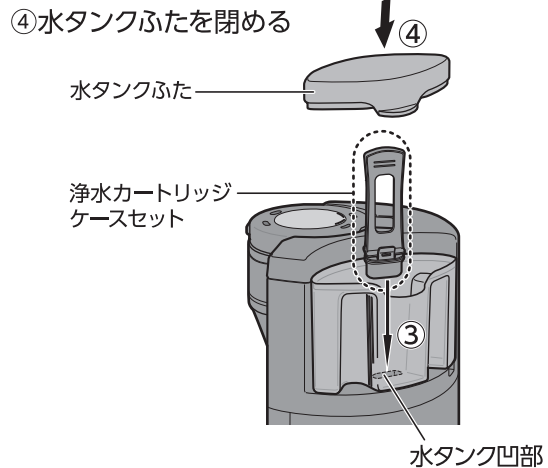
- ① 浄水カートリッジを袋から取り出し、浄水カートリッジケースシタに入れる



- ② 浄水カートリッジケースウエと浄水カートリッジケースシタを取りつける



- ③ 浄水カートリッジケースセットを水タンク凹部に奥までしっかり差し込む



浄水パッキンがついていることを確認してください。

パッキンは溝に合わせて取りつけてください。



●パッキンのねじれなどに注意してください。

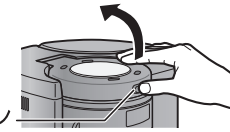
使い方

1 ミルケースフィルターを取りつける

ミルケースふたの開閉方法

■開け方

ボタンを押しながら持ち上げる



■閉め方

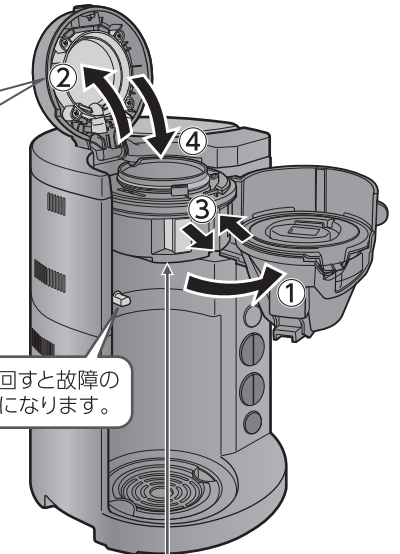
ミルケースふたの上部分を押しさえ、「カチッ」と音がするまで閉める

ボタン

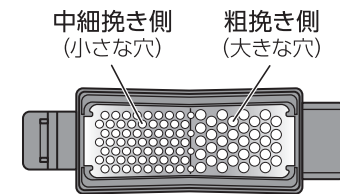
- ① スイングバスケットを開ける
- ② ミルケースふたを開ける
- ③ ミルケースをはずしてミルケースフィルターをお好みの挽き方になるよう取りつけたあと、再度ミルケースを取りつける (→P.9)
- ④ ミルケースふたを「カチッ」と音がするまで閉める

●スイングバスケットを開閉するときは本体が倒れないように注意してください。

手で回すと故障の原因になります。



ミルケースフィルター



刻印の記号

ミルケース	中細 ▽	粗 ◎
ミルケース フィルター	△	◎
挽き方	中細挽き	粗挽き

○お願い

ミルケースフィルターは必ず取りつけてください。
(コーヒー豆が挽けない原因)

- 取りつける方向により、「中細挽き」と「粗挽き」を切りかえることができます。
- 挽き方を切りかえるにはミルケースとミルケースフィルターの刻印を同じ記号に合わせて取りつけます。
(はずし方・つけ方→P.9)
- お買い上げ時には「中細挽き」の方向に取りつけています。

ミルクースフィルターとコース選択の組み合わせについて

2段階の挽き分けができるミルクースフィルターと、2段階の濃度調節ができるコース選択を組み合わせることにより、4通りの味わいをお好みで楽しめます。

4通りの挽き分け・濃度調節組み合わせ一覧 ※1		●コーヒー名称は、組み合わせに適したコーヒーの参考例です。	
コース	普通	濃い	
ミルクースフィルター	普通	濃い	
粗挽き	香りがはっきりとしていて、味わい軽やか、すっきりとした後味 フルーティな香りのモカ	柑橘系の香りがあり、味わいのバランスが良く、甘みが残る クリアでバランスのとれたブルーマウンテン	
中細挽き	香り、酸味、甘み、苦味の特徴がバランスよく感じられる味わい 明るい酸味のキリマンジャロ	後味は甘みを伴う苦味があり、コクが増す、ジューシーな口あたり 爽やかな風味のグアテマラ	

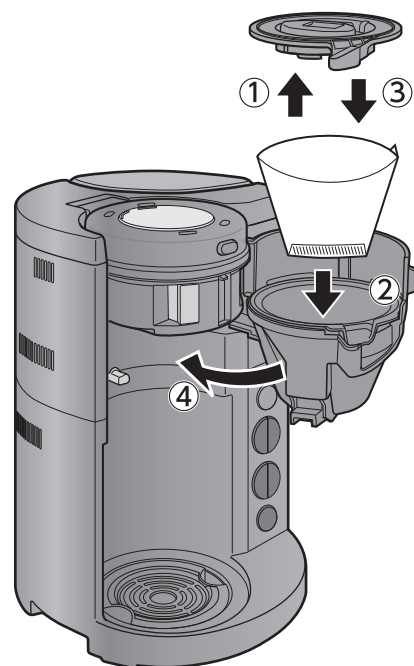
※1 小川珈琲株式会社所属SCAA/CQI認定Qグレーダーによる評価。
コーヒー豆の種類、挽き方、量などによって異なることがあります。

2 ペーパーフィルターを取り付ける

【コーヒー豆】と【コーヒー粉】、どちらをお使いの場合もペーパーフィルターを取り付けてください。

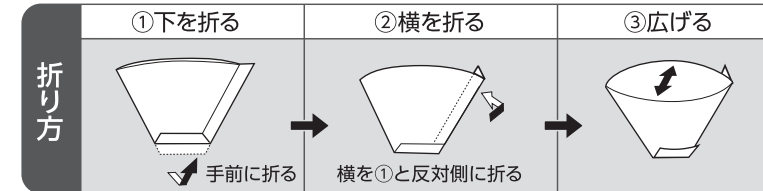
- ①フィルターケースふたを取りはずす
- ②フィルターケースにペーパーフィルターを取り付ける
- ③フィルターケースふたを取りつける
- ④スイングバスケットを「カチッ」と音がするまで閉める

●ペーパーフィルターのかわりに付属のステンレスメッシュフィルターも使用できます。



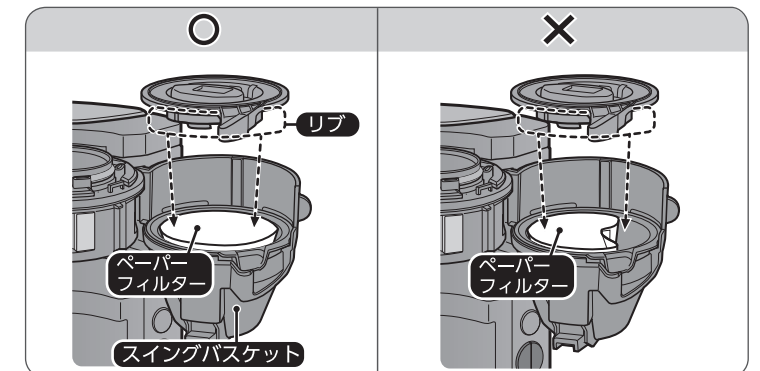
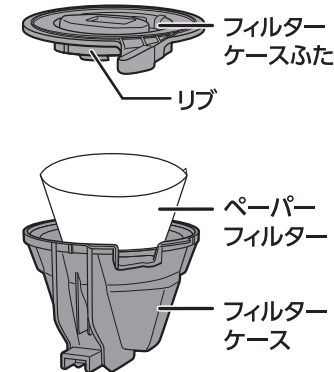
ペーパーフィルターの取り付け方

●ペーパーフィルターを使用する場合は、ステンレスメッシュフィルターは使用しないでください。



●ペーパーフィルターは、上図のように折ってからフィルターケースに取り付けてください。

フィルターケースセット



●ペーパーフィルターがフィルターケースに沿うように取り付けてください。リブがペーパーフィルターの内側に入るように、フィルターケースふたを取り付けてください。

- 粉の種類によっては、コーヒー粉がフィルターからあふれる場合があります。(デカフェ、カフェインレス、浅煎りなどの粉はあふれやすいものがあります。)その場合は、ステンレスメッシュフィルターを使用するか、作るコーヒーの量(杯数)を減らしてください。
- コーヒー豆やコーヒー粉の種類、ペーパーフィルターの種類によっては、フィルターケースにコーヒーが多く残る場合があります。
- ペーパーフィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- ペーパーフィルターを使用する場合、正しく取り付けないとコーヒー粉がフィルターからあふれる恐れがあります。
- ペーパーフィルターとステンレスメッシュフィルターでは、できあがりのコーヒーの味がかわることがあります。

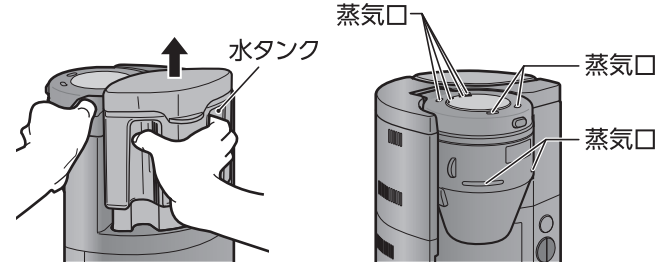
●フィルター(ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルター)なしで使用しないでください。(コーヒーがあふれる原因)

使い方 つづき

3 水タンクに水を入れる

①水タンクを本体からはずす

- 本体を押さえずにはずしてください。本体が持ち上がり、落下することがあります。(蒸気口には手を触れないでください。)



②浄水カートリッジケースセットを正しく取りつけていることを確認する (→P.10)

故障や水漏れ、コーヒーがあふれる原因になるため、以下のことをお守りください。

- 浄水カートリッジケースセットは水タンクに水を入れる前に取りつけてください。
- 水タンクに湯を入れないでください。
- 水タンクを本体に取りつけた状態で水を入れないでください。水が製品内部に流れ込むため水量が多くなります。
- ドリップ中は水をつぎ足さないでください。

ステンレスサーバー使用時

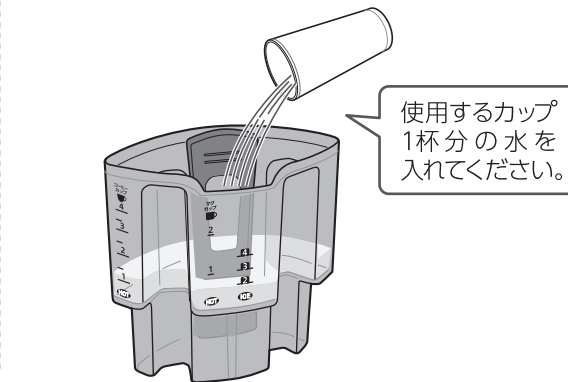
③作るコーヒーの量の水タンク目盛まで水を入れ、水タンクふたを取りつける

- 水タンク目盛の「HOT コーヒーカップ 4」を超える水を入れないでください。(ステンレスサーバーからコーヒーがあふれる恐れ)

カップ使用時 (カップに直接ドリップするとき)

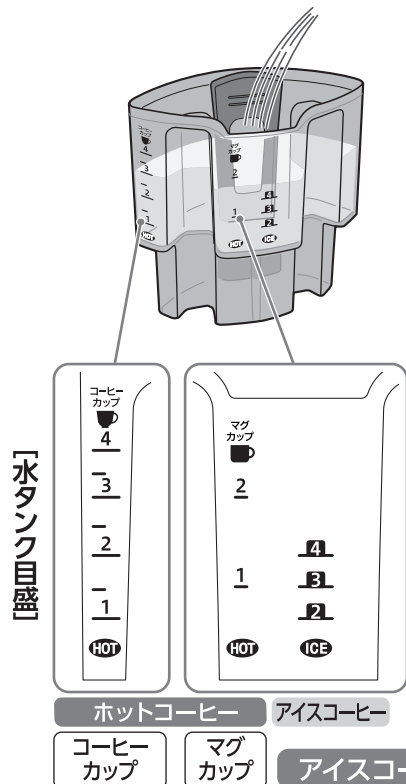
③使用するカップで水を計量し、1杯分の水を水タンクに入れ、水タンクふたを取りつける

- 使用するカップ1杯分を超える水を水タンクに入れないでください。(コーヒーがあふれてやけどの恐れ)
- 使用するカップ2杯分以上のコーヒーを作るときはステンレスサーバーを使用してください。
- 指定のサイズのカップを使用してください。(→P.17)



ミネラルウォーター使用時のお願い

- 硬度200以上のものは使用しないでください。製品内部の水管にミネラル分が付着して、ドリップ時間が長くなったり、最後までドリップできなくなることがあります。
- できるだけ硬度100以下のものを使用してください。
- 使用中にドリップ時間が長くなったときは、クエン酸洗浄を行ってください。(→P.23)



アイスコーヒーの作り方……→P.19 参照

4 コーヒー豆またはコーヒー粉を入れる

水タンクの水量 (水位線) に合わせた豆 (粉) 量を入れてください。

■ コーヒー豆 (粉) 標準使用量

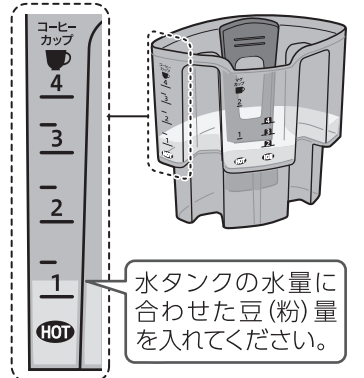
	カップ数	コーヒー豆 (粉) 量
ホット コーヒー カップ	4カップ	3 ¾ 杯 (約30g)
	3カップ	3 杯 (約24g)
	2カップ	2 ¼ 杯 (約18g)
	1カップ	1 ¼ 杯 (約10g)
マグ カップ	2カップ	3 杯 (約24g)
	1カップ	1 ¾ 杯 (約14g)
アイス コーヒー	4カップ	3 ¾ 杯 (約30g)
	3カップ	3 杯 (約24g)
	2カップ	2 ¼ 杯 (約18g)
	1カップ	作ることができません

- できあがり量の目安
コーヒーカップ1杯 約120mL、
マグカップ1杯 約180mL、
アイスコーヒー1杯 約60mL

- 計量スプーン
コーヒー豆・コーヒー粉
すりきり1杯 約8g

- できあがりの量が少なくなるときの
コーヒーが薄くなることもある
ため、コーヒー粉はお好みにより
加減してください。

- 入れるコーヒー粉の量・種類・
粗さによりできあがりのコーヒー
の量が変わることがあります。



- 計量スプーンのすりきり3¾杯 (約30g) を超える量のコーヒー豆 (粉) を入れないでください。(ミルクケースふた周辺から湯が飛び散ったり、スイングバスケットからコーヒーがあふれたり、内部モーターが故障する原因)

- 1カップ (120mL) 未満のコーヒーを作るときはできません。
- 2杯以上のコーヒーを作るときはステンレスサーバーを使用してください。
- アイスコーヒーを作るときは、ステンレスサーバーを使用してください。
- スイングバスケットを開閉するときは本体が倒れないように注意してください。
- スイングバスケットを正しく閉めないとおふれる原因になります。

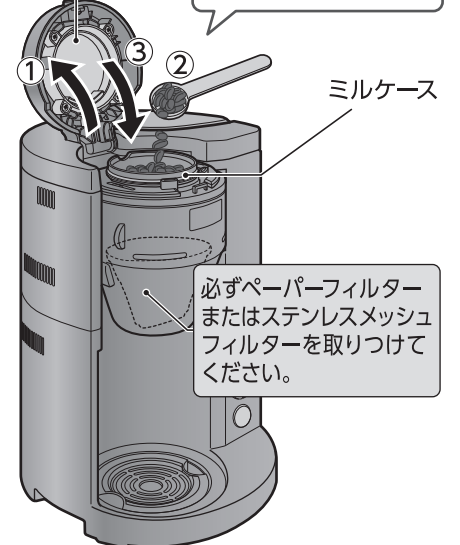
コーヒー豆を入れる場合 …… ミルクケースに入れる

- ①ミルクケースふたを開ける
- ②ミルクケースにコーヒー豆を入れる
- ③ミルクケースふたを「カチッ」と音がするまで閉める

- コーヒー豆を入れたあとは、ミルクケースフィルターをはずさないでください。(ミルクケースからコーヒー豆が落ちる原因)
- ミルクケースふたの内側やミルクケース・ミルクケースフィルターがぬれている場合は、乾いた布でふき取ってください。(コーヒー豆が付着してミルクケース内に残る原因)
- 生豆や湿ったコーヒー豆を入れないでください。
- ミルクケースにはコーヒー豆以外(コーヒー粉など)を入れないでください。(ドリップ時にミルクケース・ミルクケースふた周辺から湯などがあふれたり、故障する原因)
- コーヒー豆の焙煎度合いによっては、ミルクケースにコーヒー豆が残る場合や運転を停止することがあります。
- ミルクケースは毎回お手入れをしてください。(ミルクケースにコーヒー豆が残る原因)
- フィルターケースに豆を入れないでください。

ミルクケース
ふたの内側

コーヒー豆は押さえ
つけたり、押し込まな
いください。



コーヒー粉を入れる場合 …… フィルターに入れる

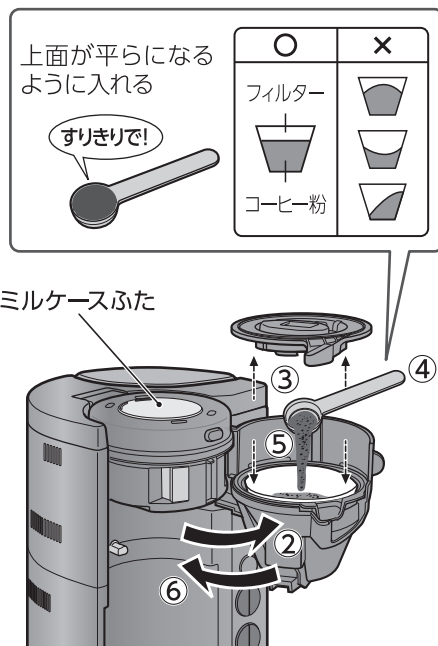
→ P.16

使い方 つづき

コーヒー粉を入れる場合…… フィルターに入れる

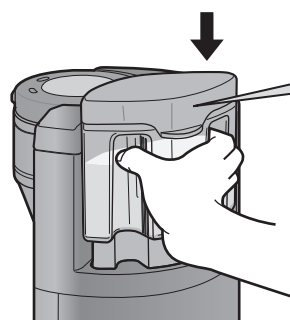
- ① ミルケースふたがしっかり閉まっていることを確認する
- ② スイングバスケットを開ける
- ③ フィルターケースふたを取りはずす
- ④ ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターにコーヒー粉を入れる（コーヒー粉の標準使用量はP.15参照）
- ⑤ フィルターケースふたを取りつける
- ⑥ スイングバスケットを「カチッ」と音がするまで閉める

- ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターにはコーヒー粉以外を入れないでください。（ドリップ時にスイングバスケットからコーヒーがあふれたり、故障の原因）
- 細挽き粉は使用しないでください。（フィルターが目詰まりし、コーヒーがあふれる恐れ）
- フィルターケースふたは確実に取りつけてください。
- ミルケースにコーヒー粉を入れないでください。（ドリップ時にミルケース・ミルケースふた周辺から湯などがあふれたり、モーターが故障する原因）



5 水タンクを本体に取りつける

水タンクを本体に沿って根元までしっかりと差し込む



本体に沿ってまっすぐ差し込む → 根元まで確実に差し込む



- 水タンクを根元まで差し込まないと故障の原因になります。また、ドリップ中に湯が出ないことや、水タンクに水が残った状態でドリップが完了することがあります。

6 ステンレスサーバーまたはカップを載せる

熱いコーヒーがお好みの方は…

あらかじめステンレスサーバーまたはカップを熱湯で温めてからご使用ください。

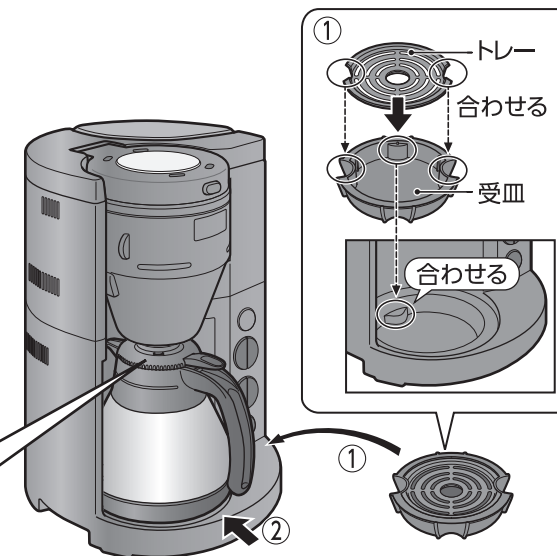
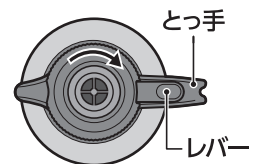
- トレー（またはカップ用トレー）のみを本体に取りつけないでください。必ず受皿にトレー（またはカップ用受皿にカップ用トレー）を載せてください。
- トレーやカップ用トレーの表裏を逆にして取りつけないでください。
- 受皿・トレーの上にカップ用受皿・カップ用トレーを載せないでください。

ステンレスサーバー使用時

- ① 受皿にトレーを載せ、本体に取りつける
- ② ステンレスサーバーの中が空であることを確認してからサーバーふたセットを閉め、トレーに載せる

- ステンレスサーバーの中に湯やコーヒーが入っている状態でドリップを開始すると、ステンレスサーバーからコーヒーがあふれる恐れがあります。
- ステンレスサーバーを取りつけるときは、しずくもれ防止弁に無理な力を加えないでください。

サーバーふたセットを矢印の方向に回して、とっ手とレバーの位置が合うまで確実に閉める



カップ使用時（カップに直接ドリップするとき）

使用するカップのサイズに合わせてトレーを選択してください。

- ① カップのサイズに合わせて受皿にトレー（またはカップ用受皿にカップ用トレー）を載せ、本体に取りつける
- ② カップをトレー（またはカップ用トレー）の中央に載せる

【お願い】 使用するカップ2杯分以上のコーヒーを作るときはステンレスサーバーを使用してください。

- ドリップ中は別のカップにかえないでください。
- 高さが低いカップを使用した場合、コーヒーが飛び散ることがあります。

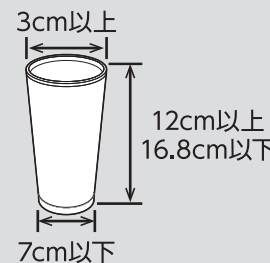
カップ用トレーを設置する場合

- 以下のサイズのカップが使用できます。
 - 口径3cm以上
 - 高さが12cm未満
 - 底部の外径が7cm以下
 - 容量が120mL以上

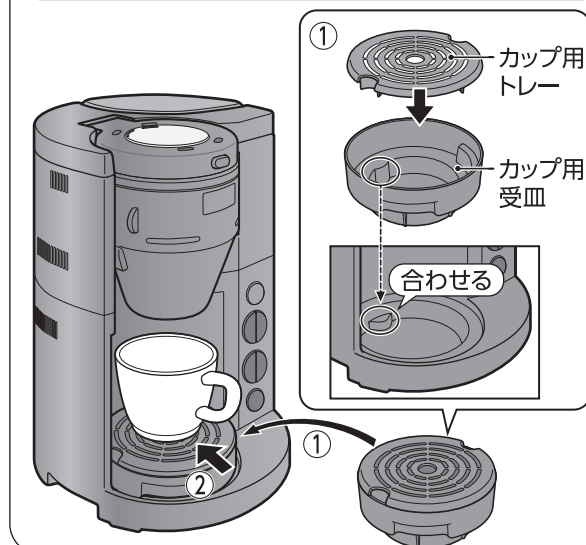


受皿・トレーを設置する場合

- 以下のサイズのカップが使用できます。
 - 口径3cm以上
 - 高さが12cm以上16.8cm以下
 - 底部の外径が7cm以下
 - 容量が120mL以上



トレー・受皿の取り付け方は
上記 **ステンレスサーバー使用時** 参照



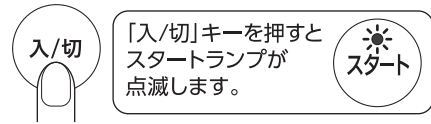
使い方 っづき

7 差込みプラグをコンセントに差し込み、コースを選んでスタートする

① 差込みプラグを差し込む

● 本体を水にぬれた場所で使用しないでください。(感電の恐れ)

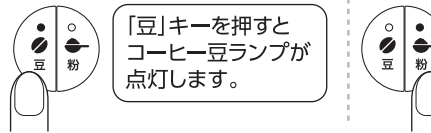
② 「入/切」キーを押す



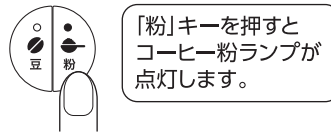
「入/切」キーを押すとスタートランプが点滅します。

③ 「豆」または「粉」キーを押す

● 「豆」キーと「粉」キーを間違えないように注意してください。



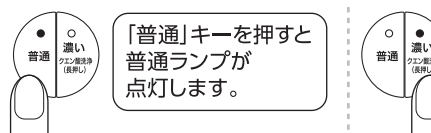
「豆」キーを押すとコーヒー豆ランプが点灯します。



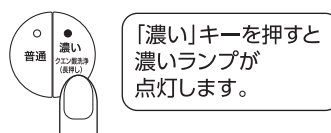
「粉」キーを押すとコーヒー粉ランプが点灯します。

④ 「普通」または「濃い」キーを押す

● ドリッピング中に自動でコーヒーの濃度調整を行います。



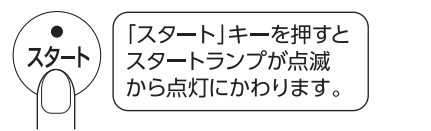
「普通」キーを押すと普通ランプが点灯します。



「濃い」キーを押すと濃いランプが点灯します。

⑤ 「スタート」キーを押す

● プラグを抜いても前回の設定を記憶しています。



「スタート」キーを押すとスタートランプが点滅から点灯にかわります。

- 「スタート」キーを押さずに約10分経過すると自動的に電源が切れます。
- コーヒー豆の挽きははじめは大きな音がします。
- コーヒー豆を挽き終えたあと、しばらくすると再度ミルが回転します。(洗浄のため、異常ではありません。)

できあがり時間の目安

(水温20℃、室温20℃、コーヒー豆を使用した場合)

カップ数	1カップ	2カップ	3カップ	4カップ
コーヒーカップ	4分	5.5分	6.5分	8分
マグカップ	4.5分	6.5分	—	—

- できあがり時間は、水量・室温・コーヒー豆の量などでかわります。
- コーヒー粉を使用した場合は約1分短くなります。

「豆」と「粉」を間違えて選んでスタートしたときは…

コーヒー豆を使用するときに「粉」キーを押した場合

「入/切」キーを押したあと、「使い方7-②」からやり直してください。
(ドリッピングによりコーヒー豆がぬれているときは、新しいコーヒー豆で「使い方1」からやり直してください。→P.11)

コーヒー粉を使用するときに「豆」キーを押した場合

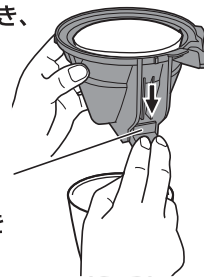
運転が停止することがあります。
(ブザーが鳴り、コーヒー豆ランプが点滅します。)
→「入/切」キーを押したあと、「使い方7-②」からやり直してください。

途中でやめるときは…

① 「入/切」キーを押す

② 本体が冷めてフィルターケースからコーヒーが落ちてこなくなったことを確認したあと、ステンレスサーバー(またはカップ)とフィルターケースセットを取り出す

③ フィルターケースの下に容器を置き、フィルターケースレバーを押してフィルターケースにたまったコーヒーを捨てる



④ 水タンクをはずし、残っている水を捨てる

- フィルターケース内にコーヒーがたまっているのでバスケットを開くとこぼれる恐れがあります。
- コーヒーを捨てるときはやけどに注意してください。
- 水タンクをはずしたときに水タンクから水が垂れることがあります。
- やめた時点からの再開はできません。もう一度ご使用のときは「使い方1」からやり直してください。(→P.11)

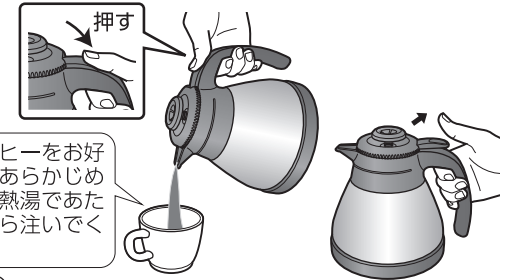
8 ブザーが鳴りドリッピングが完了

ステンレスサーバー使用時

ステンレスサーバーを取り出し、サーバーふたのレバーを押しながらカップに注ぐ

- ステンレスサーバーを傾けたときに、注ぎ口やサーバーふたの穴から少量のコーヒーが漏れることがあります。
- 次の場合はコーヒーが漏れることがありますのでご注意ください。
 - 注ぐときに必要以上に傾ける
 - 持ち運ぶときに傾けたり、横抱きする
 - 転倒させる

ドリッピングが完了すると自動的に電源が切れます。(すべてのランプが消灯し、ブザーでお知らせします。)



熱いコーヒーをお好みの方はあらかじめカップを熱湯であたためてから注いでください。

お願い

- コーヒーを注いだあとは、レバーを押したままステンレスサーバーを水平に戻し、レバーから指を離してください。
- 使用後は差込みプラグを抜いてください。

ステンレスサーバーでコーヒーを保温するとき…

- サーバーふたセットを確実に閉めてください。
- ステンレスサーバーはまほうびん構造により保温できますが、コーヒーの温度は時間の経過とともに徐々に低下します。
- 少量のときや室温が低いときは、ステンレスサーバーにコーヒーの熱が取られ、コーヒーの温度が低くなります。
- 長時間保温すると香りがぬけて風味が悪くなりますので、早めにお召し上がりください。

ドリッピング後は…

スイングバスケットを開けて本体からフィルターケースセットをはずし、ドリッピング済みのペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターを取り出してください。

- 金属部分や、湯を含んだペーパーフィルターは熱くなっていますのでやけどに注意してください。
- フィルターケース内にコーヒーがたまっている場合はフィルターケースレバーを押してコーヒーを捨ててください。

連続してコーヒーを作るときは…

- 本体を5分以上冷ましてから「使い方1」より行ってください。(→P.11)
- 運転完了または停止後、約5分間は連続運転できません。
- 本体が熱いうちに給水したり、動かしたりしないでください。
- ミルケースフィルターにコーヒー豆やコーヒー粉が付着している場合は取り除いてください。(コーヒー豆を使ったあとのみ)(ミルケース・ミルケースふた周辺からコーヒーがあふれる恐れ)
- ミルケースふたの内側やミルケース・ミルケースフィルターがぬれている場合は、乾いた布でふき取ってください。(コーヒー豆が付着してミルケース内に残る原因)

アイスコーヒーの作り方

アイスコーヒーを作るときは、ステンレスサーバーを使用してください。

準備するもの

- アイスコーヒー用コーヒー豆またはコーヒー粉
- 氷



作り方

- ① 「使い方1~7」と同じ手順でコーヒーを作ります。(→P.11)
 - ステンレスサーバーは予熱しないでください。
 - 水量は水タンクの「ICE」の目盛に合わせてください。
- ② サーバーふたセットをはずし、ステンレスサーバーに氷を入れてかき混ぜながら冷やします。
- ③ サーバーふたセットを閉めて、レバーを押しながらグラスに注ぎます。

■ 氷の量の目安

カップ数		2カップ	3カップ	4カップ
氷の量	個数の目安*(個)	8	12	16
	重さ(約g)	120	180	240

*角氷(2.5cm角)の場合。入れる氷の個数は氷の大きさによりかわります。お好みにより調整してください。

- ステンレスサーバーにあらかじめ氷を入れてコーヒーを作らないでください。(コーヒーがあふれ、やけどの恐れ)
- アイスコーヒーを1カップ分だけ作ることはできません。2カップ以上で作ってください。
- 氷を入れたあとのコーヒーの液面は、下図の位置までにしてください。氷を入れすぎると、コーヒーがあふれることがあります。



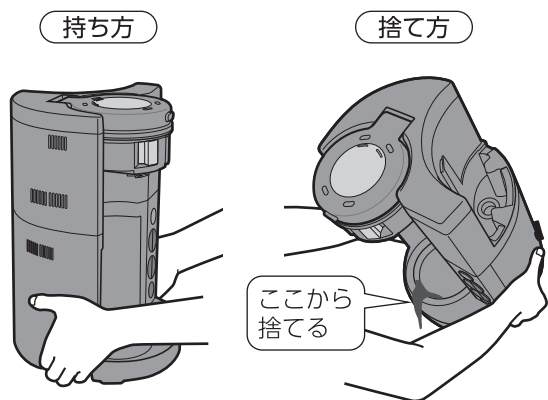
お手入れ

差し込みプラグをコンセントから抜き、本体が冷めてからお手入れしてください。

- ご使用ごとに必ずお手入れしてください。
- 本体・コード・差し込みプラグに直接水をかけたり、丸洗いはしないでください。(感電・故障の原因)
- 食器洗い乾燥機・食器乾燥器を使用しないでください。(部品変形の原因)
- 熱湯は使用しないでください。(変形や割れの原因)
- 次のものは使用しないでください。
 - ・台所用中性洗剤以外の洗剤・シンナー・ベンジン・漂白剤など(変色・割れ・劣化・腐食の原因)
 - ・みがき粉・ナイロンたわし・金属製のもの・メラミンスポンジ・スポンジのナイロン面・研磨剤入り洗剤など(表面が傷つく原因)
- 本体の刃部やサーバーふた以外の部分にブラシを使用しないでください。(表面を傷つける原因)
- 化学ぞうきんを使用する場合は、強くふいたり長時間触れさせたりしないでください。(表面が傷ついたり、化学変化を起こす原因)
- 長期間使用しないときは、十分乾燥させて、においがつかないようにし、ポリ袋などに入れて保管してください。

本体

- ①薄めた台所用中性洗剤を柔らかい布に含ませ、固く絞り、汚れをふき取る
 - ②水を絞った柔らかい布でよくふく
 - ③乾いた柔らかい布で水分をふき取る
- 本体にコーヒーがたまっているときは、持ち手を持ち、本体を傾けて捨ててください。(スイングバスケット・水タンク・ステンレスサーバー・受皿/トレー・カップ用受皿/カップ用トレーなどは取りはずしてください。)
 - コーヒーを捨てるときはやけどに注意してください。
 - 本体にコーヒーのしずくやコーヒー粉が残っているときは、よくふき取ってください。



ミルクケース・ミルクケースフィルター

- ①ミルクケース・ミルクケースフィルターを取りはずす(はずし方→P.9)
 - ②薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
 - ③水洗いする
 - ④乾いた柔らかい布で水分をよくふき取る
- 十分に水切りをしてください。内部に水がたまる場合があります。
 - ミルクケースを水に浸さないでください。すき間に水がたまり、さびや変形の原因になります。
 - コーヒー豆やコーヒー粉が付着している場合は取り除いてください。ミルクケース・ミルクケースふた周辺からコーヒーがあふれる恐れがあります。

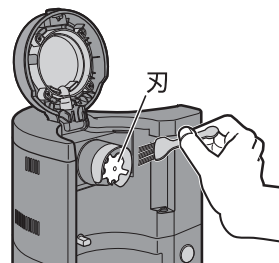
コード・差し込みプラグ

乾いた柔らかい布でふく

本体 (刃部)

刃の部分は棒などで回しながら付属のブラシでコーヒー豆やコーヒー粉を取り除いてください。(刃は鋭利なため、手を入れたり触れたりしないでください。)

- 付属のブラシで刃を回さないでください。
- 刃を変形させたり、刃でけがをしないよう注意してください。



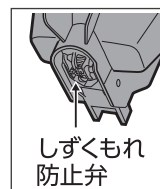
浄水カートリッジ

水で流し洗いし、よく乾燥させる

- 浄水カートリッジは消耗品です。交換時期の目安は、水質や使い方により異なりますが約2年です。(1日1回使用した場合)
- 洗剤は使用しないでください。

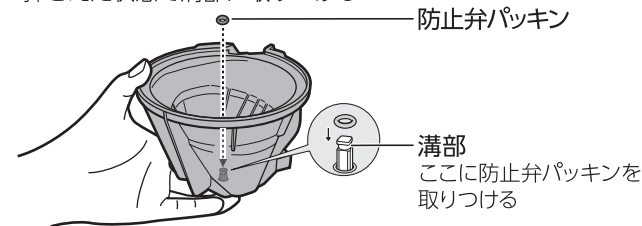
フィルターケース

- ①薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
- ②水洗いする
- ③フィルターケースの中に水を入れ、しずくもれ防止弁を2~3回動かし、汚れを洗い流す
- ④乾いた柔らかい布で水分をよくふき取る



- しずくもれ防止弁にコーヒー粉が詰まると、弁が閉まらずにコーヒーが漏れることがありますので、毎回洗ってください。
- 十分に水切りをしてください。ドリップ中に水滴が垂れることがあります。
- しずくもれ防止弁は引っ張ったり、無理に回すとはずれることがありますので注意してください。
- フィルターケースを水に浸さないでください。すき間に水がたまり、さびや変形の原因になります。

- しずくもれ防止弁は分解しないでください。防止弁パッキンがはずれたときは、しずくもれ防止弁を押さえた状態で溝部に取り付ける

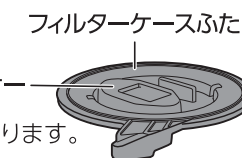


- 防止弁パッキンが確実に取り付けられていることを確認してください。歪んだり、はまっていないと水漏れの原因になります。

○	正しく取りつけた状態	
×	すき間などから水漏れします。	歪んでいる
		はまっていない

水タンク・水タンクふた・浄水カートリッジケースウエ・浄水カートリッジケースシタ・スイングバスケット・フィルターケースふた・ステンレスメッシュフィルター・受皿・トレー・カップ用受皿・カップ用トレー・ミルクケースブラシ

- ①薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
- ②水洗いする
- ③乾いた柔らかい布で水分をよくふき取る



- スイングバスケットは、十分に水切りをしてください。ドリップ中に水滴が垂れることがあります。
- ミルクケースブラシはよく乾燥させてください。
- フィルターケースふたのスペーサーは取りはずさないでください。
- ステンレスメッシュフィルターなどの樹脂は、食品衛生上安全な材料を使用していますが、樹脂がザラザラしてきたり、損傷してきた場合は新しい部品に交換(有料)してください。1年を目安にご確認ください。

ステンレスサーバー

ステンレスサーバー(外側)

- ①薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので洗う
- ②水洗い後、数回振る
- ③乾いた柔らかい布で水分をよくふき取る

- ステンレスサーバーを水に浸さないでください。すき間に水がたまり、さびや変形の原因になります。

ステンレスサーバー(内側)

- 常にお手入れをしていただきますと、においを防ぎ清潔に使用していただけます。

- ①薄めた台所用中性洗剤を含ませた柄のついたスポンジブラシなどで、きれいに内面を洗う
- ②水洗いし、乾燥させる

汚れのこびりつきがひどいとき

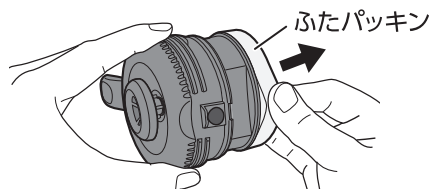
ステンレスサーバー内側にこびりついたコーヒーの汚れには、「象印ステンレスボトル用洗剤ピカボトル」をご使用ください。(別売品→P.26)

- ピカボトルはステンレスサーバー以外には使用しないでください。
- お手入れのときは、サーバーふたセットをステンレスサーバーからはずしてください。

お手入れ っづき

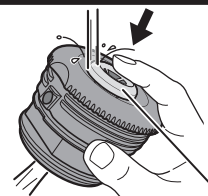
サーバーふたセット

- ①ふたパッキンを取りはずす
- ②薄めた台所用中性洗剤を含ませたスポンジなどの柔らかいもので、サーバーふた・ふたパッキンを洗う
- ③水洗いする
 - サーバーふたのコーヒー通路部は、詰まり防止のため毎回水で流し洗いしてください。

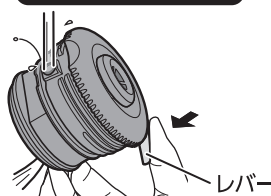


サーバーふたのコーヒー通路部は、サーバーふた弁・レバーを押しながら、図のように流し洗います

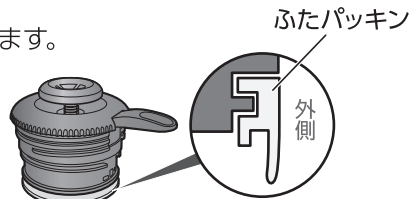
サーバーふた弁を押しながら



レバーを押しながら



- ④サーバーふた弁・レバーを押しながらサーバーふたを数回振る
 - 押しながら振らないと内部に残った水滴が垂れることがあります。
- ⑤水分をよくふき乾燥させる
- ⑥ふたパッキンを元通り取りつける
 - 右図のように取りつけてください。



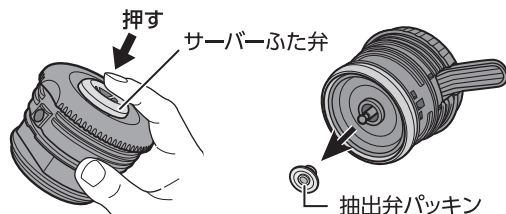
●パッキンのねじれなどに注意してください。

サーバーふた弁がスムーズに動かないときや、コーヒー通路部にコーヒー粉がたまっているとき、または約1ヶ月ご使用ごとに、サーバーふた弁をはずして洗ってください。

- 洗にくい部分は、市販の小型ブラシなどで洗ってください。
- はずした部品は、下記の通り正しく取りつけてください。

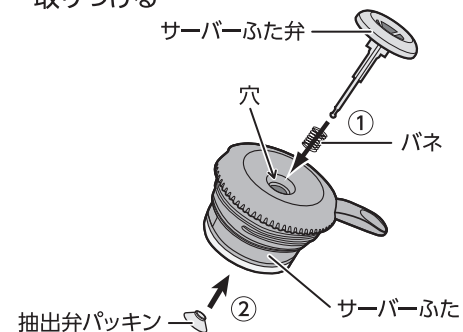
サーバーふた弁のはずし方

サーバーふた弁を押しながら抽出弁パッキンをはずす(抽出弁パッキン・サーバーふた弁・バネがはずれます。)

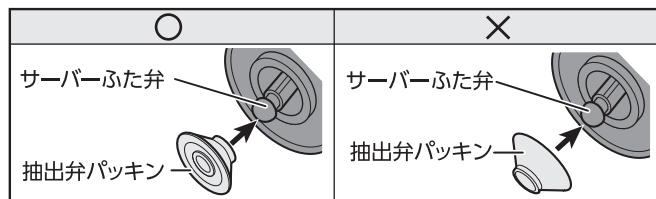


サーバーふた弁のつけ方

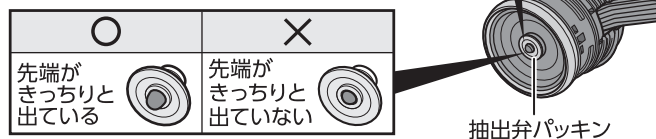
- ①サーバーふた弁にバネを通したあと、サーバーふたの穴に入れる
- ②サーバーふた弁に抽出弁パッキンを取りつける



●抽出弁パッキンは、図の向きに正しく取りつけてください。



●抽出弁パッキンは、サーバーふた弁の先端がきっちりと出るように取りつけてください。



湯の出が悪くなったら、クエン酸洗浄を行ってください。

コーヒーマーカーをお使いいただいているうちに水の中に含まれているミネラル分が本体内部の水管などに付着します。

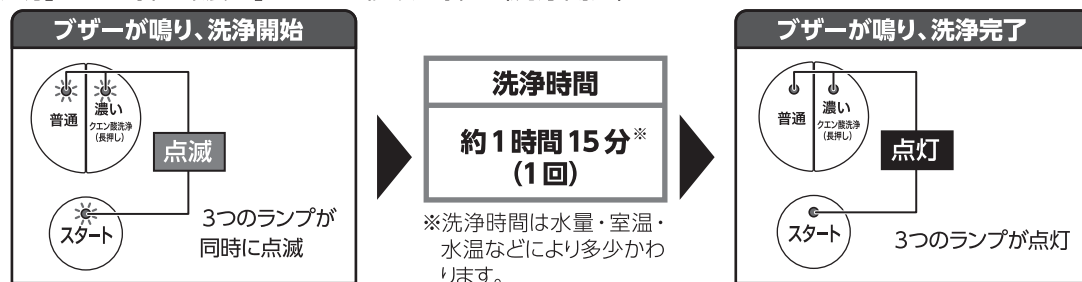
ミネラル分が付着すると湯の出具合が悪くなり、コーヒーのドリップ量が少なくなったり、本体のすき間から湯が漏れることがあります。

- ミネラル分はクエン酸洗浄で取り除いてください。(下記「クエン酸洗浄のしかた」参照)
- クエン酸洗浄は約4週間に1回が目安です。
水質によって異なり、ミネラル分の多い地域やミネラルウォーターなどをご使用の場合は、ミネラル分がつきやすくなります。

クエン酸洗浄のしかた

- 洗浄の前に必ず浄水カートリッジケースセットをはずしてください。
浄水カートリッジをつけたままクエン酸洗浄を行うとクエン酸のにおいがついたり、コーヒーの味がかわる原因になります。
- 浄水カートリッジケースセットを取りつけたままクエン酸洗浄をしたときは、水で洗い流してください。(クエン酸のにおいをとるため)

- ①コップに小さじ1.5杯(約6g)のクエン酸を入れて、ぬるま湯で溶かし、水といっしょに水タンク目盛の「コーヒーカップ 4」まで入れる
- ②水タンク内の溶液をよくかき混ぜる
- ③水タンク・フィルターケースセット・ミルクケース・スイングバスケット・受皿・トレーを本体に取りつけ(ペーパーフィルター・ステンレスメッシュフィルターは取りつけないでください)、ステンレスサーバー(サーバーふたセットが取り付けられた状態)をトレーに載せる
- ④「入/切」キーを押し「濃い」キーを3秒以上押す(洗浄開始)



- ⑤「入/切」キーを押す
- ⑥ドリップされたクエン酸溶液を別の容器に移して冷まし、溶液の中に混ざっている白い結晶などを除く
- ⑦本体を5分以上冷ます
- ⑧⑥のクエン酸溶液を再度水タンクに入れ、④～⑦を白い結晶などがなくなるまで繰り返す
- ⑨本体が十分冷めてから、ステンレスサーバーと水タンク内をすすいだあと、クエン酸のにおいを取るために水だけで数回ドリップする(連続してドリップするときは、スタートランプが消灯した状態で5分以上待つ)
- ⑩差込みプラグをコンセントから抜く

●途中でクエン酸洗浄をやめるときは、「入/切」キーを押してください。途中でやめた場合は、再び①から操作を行ってください。

●泡立ち、ふきこぼれ防止のため弊社のパイプ洗浄用クエン酸(コーヒーマーカークリーナー)をお使いください。(別売品) → P.26
クエン酸(100%)は食品添加物として使用されており、食品衛生上無害ですが食べないでください。

●湯の出が悪い場合は再度クエン酸洗浄をしてください。

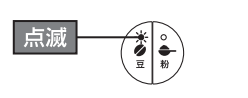
故障かなと思ったとき

修理を依頼される前に、
次の点をお調べください。

こんなときは	お調べいただくこと	直し方
「入/切」キーを押しても通電しない	差込みプラグがはずれていませんか？	差込みプラグをコンセントに差し込んでください。
湯が出ない 湯の出が悪く、ドリップのスピードが遅い	水タンクに水が入っていますか？ 水タンクは正しく取り付けられていますか？ 本体内部の水管などにミネラル分が付着すると湯の出具合が悪くなります。クエン酸洗浄を行ってください。(→P.23)	水タンクに水を入れてください。(→P.14) 水タンクを正しく取り付けてください。(→P.16)
コーヒーがぬるい (保温が効いていない)	長時間保温していませんか？ コーヒーの量が少ないときや室温が低いときは、コーヒーの温度が低くなります。 あらかじめステンレスサーバーまたはカップを熱湯で温めておくとコーヒーのできあがり温度が高くなり、保温に効果的です。	コーヒーの温度は時間の経過とともに徐々に低下します。
「スタート」キーを押してもブザーが鳴りスタートできない	スイングバスケットまたはミルクケースふたが確実に閉まっていますか？ フィルターケースは正しく取り付けられていますか？ フィルターケースふたは取り付けられていますか？ ドリップ完了後、すぐに連続してコーヒーを作っていませんか？	スイングバスケットまたはミルクケースふたを確実に閉めてください。(→P.11~16) フィルターケースを正しく取り付けてください。(→P.8) フィルターケースふたを取りつけてください。(→P.8) 本体が熱いので、5分以上冷ましてからコーヒーを作ってください。 ドリップ完了後、約5分間は連続運転できません。
ブザーが鳴り、すべてのランプが点滅している	水タンクに水を入れていませんか？ 水タンクを確実に取り付けられていますか？	①「入/切」キーを押す ②本体を冷ますため、5分以上待つ ③水タンクに水を入れ、確実に取り付ける(→P.14~16) ④「使い方7」からやり直す(→P.18) 上記の処置で直らないときは、差込みプラグを抜き、10秒以上たってから再度操作してください。 (それでも直らないときは、お買い上げの販売店にご連絡ください。)
コーヒー豆がミルクケースに残る	ミルクケースふたの内側・ミルクケース・ミルクケースフィルターがぬれたままでコーヒー豆を入れていませんか？ 計量スプーン3 3/4 杯(約30g)を超える量のコーヒー豆を入れていませんか？ コーヒー豆の焙煎度合いによってはミルクケースにコーヒー豆が残る場合があります。	①ミルクケースを取りはずし、コーヒー豆を取り出す ②ミルクケースふたの内側やミルクケース・ミルクケースフィルターの水分をふき取る ③新しいコーヒー豆でやり直す 計量スプーン3 3/4 杯以下で入れてください。(→P.15)
コーヒーがフィルターケース内に残る	ドリップ完了後も、フィルターケース内に少量のコーヒーが残ります。また、コーヒー豆やコーヒー粉の種類、ペーパーフィルターの種類によっては、フィルターケース内にコーヒーが多く残る場合があります。	
水タンクの中に水が残る	水タンクは正しく取り付けられていますか？ 本体内部の水管などにミネラル分が付着すると湯の出具合が悪くなり、水タンクの中に水が残る場合があります。クエン酸洗浄を行ってください。(→P.23)	水タンクを正しく取り付けてください。(→P.16)

こんなときは	お調べいただくこと	直し方
ドリップ時にサーバーふたセットからあふれる	サーバーふたセットにコーヒー粉が詰まっていますか？	サーバーふたセットをお手入れしてください。(→P.22)
カップ使用時 カップからあふれる	使用するカップ1杯分を超える水を水タンクに入れていませんか？	水タンクには使用するカップ1杯分の水を入れてください。(→P.14)
コーヒー粉がフィルターケースからあふれる	ミルクケースフィルターは正しく取り付けられていますか？	ミルクケースフィルターを正しく取り付けてください。(→P.9)
コーヒーやコーヒー粉がフィルターからあふれる	ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターは正しく取り付けられていますか？	ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターを正しく取り付けてください。(→P.12~16)
	計量スプーン3 3/4 杯を超える量のコーヒー豆(粉)を入れていませんか？	計量スプーン3 3/4 杯以下で入れてください。(→P.15~16)
	しずくもれ防止弁にコーヒー粉が詰まっていますか？	フィルターケースをお手入れしてください。(→P.21)
	フィルターケース・ミルクケースフィルターは正しく取り付けられていますか？	フィルターケース・ミルクケースフィルターを正しく取り付けてください。(→P.8~9)
	細挽き粉を使用していませんか？	細挽き粉を使用しないでください。
	スイングバスケットをしっかりと閉じていますか？	スイングバスケットをしっかりと閉じてください。(→P.12~16)
	サーバーふたを正しく取りつけていますか？	サーバーふたを正しく取りつけてください。(→P.17)
	サーバーを正しく取りつけていますか？	サーバーをトレイに正しく載せてください。(→P.16~17)
	ペーパーフィルターとステンレスメッシュフィルターを重ねて使用したり、ペーパーフィルターを2枚以上重ねて使用していませんか？	ペーパーフィルター1枚のみ、またはステンレスメッシュフィルターのみで使用してください。
	粉やペーパーフィルターの種類によっては、コーヒーがフィルターからあふれる場合があります。その場合は、ステンレスメッシュフィルターを使用するか、作るコーヒーの量(杯数)を減らしてください。	
運転中にブザーが鳴り、コーヒー豆ランプと普通ランプが同時に点滅している	コーヒー豆を入れすぎていませんか？ 湿ったコーヒー豆を入れていませんか？	①差込みプラグを抜いたあと、ミルクケースを取りはずし、コーヒー豆を取り出す ②お手入れをしたあと新しいコーヒー豆でやり直す(→P.11, 20) お使いになるコーヒー豆の焙煎度合いによっては、上記に従ってやり直した場合でも再度運転を停止することがあります。その場合は、ミルクケースフィルターを「粗挽き」側に取りつけて運転してください。(→P.9, 11) コーヒーのできあがり感が薄く感じられる場合は、濃度調節を「濃い」に設定するか、コーヒー豆の量を調節してください。(→P.18) (ただし、計量スプーン3 3/4 杯(約30g)を超える量のコーヒー豆を入れないでください。)
運転中に「ピー」とブザーが鳴り、運転が止まった	スイングバスケットやミルクケースふたを途中で開けていませんか？	安全装置が働いています。 コーヒー豆やコーヒーを捨て、お手入れしたあと「使い方1」からやり直してください。(→P.11)
電源コードが熱くなる	ご使用中は、電源コードが熱くなる場合がありますが異常ではありません。	

故障かなと思ったときっづき

こんなときは	お調べいただくこと	直し方
<p>運転中にブザーが鳴り、コーヒー豆ランプが点滅している</p> 	<p>コーヒー豆を入れ忘れていませんか？</p> <p>入れるコーヒー豆が少なすぎませんか？</p> <p>コーヒー粉を使ったときに、「豆」キーを押していませんか？</p> <p>ペーパーフィルターまたはステンレスメッシュフィルターにコーヒー豆を入れていませんか？</p>	<p>①「入/切」キーを押す ②コーヒー豆を入れ、「使い方7-②」からやり直す(→P.18)</p> <p>計量スプーン1 1/4杯以上で入れてください。(→P.15)</p> <p>①「入/切」キーを押す ②「使い方7-②」からやり直す(→P.18)</p> <p>ミルケースにコーヒー豆を入れてください。</p>
<p>お手入れするときは…</p>	<p>差込みプラグをコンセントから抜き、本体を5分以上冷ましてからお手入れしてください。</p>	

部品の交換・購入について

- 損傷した場合は、新しい部品と交換(有料)してください。
- お買い求めの際には製品の型名および部品名をご確認のうえ、お買い上げの販売店でお求めください。(ホームページでのご購入はP.27参照)

	部品名	部品番号
消耗品	浄水カートリッジ	718849-00
部 品	ステンレスサーバー (サーバーふたセットつき)	SERECRT-BA
	サーバーふたセット	BG818816A-01
	ステンレスメッシュフィルター	BG781825A-BA
	コーヒーメーカー用計量スプーン	BG805028L-01
	ミルケースブラシ	718336-00
別売品	パイプ洗浄用クエン酸 (コーヒーメーカークリーナー)(6g×5包入り)	EC-ZA01-J
	ステンレスボトル用洗浄剤 ピカボトル (10g×4包入り)	SB-ZA01

アフターサービス

- 1. 保証書の内容のご確認と保管のお願い**
必ず「販売店印およびお買い上げ日」をご確認のうえ、お買い上げの販売店から受け取り、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 2. 保証期間は、お買い上げ日より1年間**
ただし、浄水カートリッジは消耗品のため、保証期間内でも有料です。
- 3. 修理を依頼されるとき**
「故障かなと思ったとき」(P.24～26)をご確認のあと、直らない場合は使用を中止し、コンセントから差込みプラグを抜いて、お買い上げの販売店にご連絡ください。
＜保証期間中＞
製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店にご持参ください。保証書の記載内容に基づき修理いたします。
＜保証期間を経過しているとき＞
修理すれば使用できる製品は、ご要望により有料修理いたします。
- 4. 補修用性能部品※の保有期間は、製造打ち切り後 5年間**
※性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 5. 修理料金の仕組み**
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
【技術料】は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
【部品代】は、修理に使用した部品および補助材料代です。
【出張料】は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
■お客様ご自身での修理・分解や改造は絶対にしないでください。

仕様

型 名	EC-RT40
電 源	交流100V 50/60Hz
消 費 電 力	740W
容 量	最大使用水量 540mL
ミル定格時間	40秒
方 式	ドリップ式
コードの長さ	1.3m(ゴムコード)
外形寸法(約cm)	幅24×奥行25×高さ37.5
質 量	約4.3kg

- 外形寸法はステンレスサーバーのとっ手を除いた寸法です。
- 特定地域(高い山・厳寒地など)においては、所定の性能が確保できないことがあります。こうした場所での使用はなるべくおさげください。
- この製品は、日本国内交流100V専用で設計されています。電源電圧や電源周波数の異なる外国では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance was designed for use in Japan only where the local voltage supply is AC100V and should not be used in other countries where the voltage and frequency vary. After-sales service for this appliance is not available outside of Japan.

此产品只针对日本国内专用交流电压 100V 所设计。由于各国所使用电压或电源频率不同，请勿使用于其它地区。另亦无法对此提供售后维修服务。

此產品為針對日本國內專用交流電壓100V所設計。由於各國所使用電壓或電源頻率不同，請勿於其他地區使用。另亦無法對此提供售後維修服務。

본 제품은 일본 국내교류 100V전용으로 설계되었기에 전압이나 전원 주파수가 상이한 외국에서는 사용할 수 없습니다. A/S 또한 불가능합니다.

お客様ご相談窓口

修理・お取り扱い・消耗品や部品ご購入などのご相談は、まずお買い上げの販売店にお問い合わせください。ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、弊社の窓口「お客様ご相談センター」にお問い合わせください。所在地・電話番号などは変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

お客様ご相談センター  0120-345135
フリーダイヤル 携帯・PHS OK ※携帯・PHSからもご利用になれます。

受付時間 9:00～17:00 月曜日～金曜日(祝日・弊社休業日を除く)
 ● 一部のIP電話など、フリーダイヤルがご利用いただけない電話でのお問い合わせ……………TEL (06) 6356-2451(有料)
 ● FAXでのお問い合わせ……………FAX (06) 6356-6143(有料)
 製品の「型名・お問い合わせ内容」と、お客様の「お名前・ご住所・電話番号・FAX番号」をご記入のうえ、お問い合わせください。
 〒530-0043 大阪市北区天満1丁目19番9号

お客様からご提供いただく「お名前・ご住所・電話番号など」の個人情報は、製品のアフターサービスおよびその後の安全点検活動のために、弊社グループ会社および協力会社との間で共同利用させていただく場合がございますのでご了承ください。

ホームページのご案内

象印マホービン お客様サポートサイト <http://www.zojirushi.co.jp/toiawase/>